

# 妙高西条農園 おたより

No. 151  
7月号  
2024.7.23



## 雨と暑い日が続いた7月

例年ですと新潟の梅雨時期は前半晴れの日が多く、後半になると雨が降るのですが、今年は梅雨入り前から30℃を超える暑い日と、毎日雨の日が続いたため、中干しを行っても、圃場が乾燥しないまま梅雨明けを向かえそうです。よるこんでいるのはアマガエルのオタマジヤクシのみです。中干し効果が見られないことから、稲丈が70cm程に伸び、稲株の分ケツも旺盛で25〜30本ほど分ケツが進んだ株もあります。

秋の収穫時にどのような影響が出るの心配しています。



### 畦道の雑草もよく生長します

雨と暑い日が続くと稲だけではなく畦の雑草の生長も旺盛で、刈り払い作業が毎日つづきます。畦の高さや傾斜により、刈り払い機の種類を変え行っています。田植え後4〜5回目の除草を行いました。

ちなみに写真の除草機3台と更に大きい除草機が1台、ブッシュクリーナーが背負い式を含め6台そろえて条件により



使い分けています。先月号でも書きましたが、作業が終わってのビールが楽しみです。

### 圃場の条件により、植え付け株数を変えています

植え付け株数とは、1坪当たりの株数です。日本の田植機はどのメーカーも、2条植えから8条植えの大型まで植え幅(列幅)は全て30cmと決まっています。したがって、植え付け間隔(引き足)の長さで植え付け株数が決まります。

疎植植え37株植え、準疎植42株植え、標準植え50株植え、密植の60株植え等があります。

植え付け株数の選択は、圃場の条件、農家の経営方針等で決められますが、疎植植えでは、平野部で水温が温かく分ケツが期待でき、苗箱数が少なくて済む等のメリットがあります。

一方密植植えでは、高冷地で水温が低く、分ケツが期待できない箇所に向いていますが、苗箱数が多くなります。

当農園では準疎植植えの42株植えを20年ほど前から採用しています。

周囲の農家では標準植えの50株植えを採用している農家が殆どです。

このように、農機具メーカーでは話していますが、その年の天候具合で、中々上手くいかないのが現状です。

田植機の植え幅	株数	間隔
疎植	37株	30cm
準疎植	42株	29.7cm
標準	50株	22.5cm
密植	60株	18.0cm

7月の農作業の動画が下のQRコードから見られます



したがって、植え付け株数の決定に当たっては、前述の条件を念頭に置き選択しています。

生産状況が遅れていますが、黒ニンニクですが、現在フル生産を行っています。

発行者  
〒944-0023 新潟県妙高市西条755  
妙高西条農園池田博子  
TEL 0255 72 3497  
Fax 0255 72 2908